学生の入学時におけるコンピテンシーと１年次英語能力試験結果の変容に関する分析

石井雅章（神田外語大学）

１.本発表の目的と課題

本発表では、大学入学後に測定した学生のコンピテンシーに関する各能力と、1 年次における英語能力試験の成績変容の関係を分析する。TOEFL や TOEIC に代表される英語能力試験の成績は、当該試験の点数向上を目的とした学習方法及び学習行動によって変容すると考えられる。また、点数向上を目的とした学習方法及び学習行動は、当該時点での学生のコンピテンシーによって影響を受けると考えられる。そこで本発表では、学生のコンピテンシーと英語能力試験成績の変容の関係について統計的分析をおこなう。

２.方法

本発表では、英語能力試験成績のデータとして下記のデータを用いた。

① 2015 年度の 1 年次生の入学時から 1 年間の TOEFL 及び TOEIC 成績
② 2015 年度の 1 年次生の一部を対象に実施した PROG テストの結果

本学では、入学時から卒業時までの TOEFL 及び TOEIC の成績データについて、全学生を対象に収集している。本発表では入学時のから 1 年間の成績データを元に、当該 1 年間での最高点と入学時の点数の差分を、英語能力試験の成績変容を示すデータとして利用した。

一方、PROG テストは、学生のリテラシー能力とコンピテンシー能力を総合的に測定するテストであり、本学では 2015 年度に 1 年次生全体の約 3 割強にあたる 253 名の学生が受検した。本報告では、その結果のなかからコンピテンシー能力のデータを用いた。

上記のデータを統合し､TOEIC もしくは TOEFL いずれかの成績変容データを有する学生のなかから PROG テストを受検した学生のデータを抽出（206 名）した。

成績変容とコンピテンシー能力の関係については、コンピテンシー要素ごとに学生のレベルを 3 つの群（high, middle, low）に分け、分散分析をおこない各群の成績変容の母平均に差があるかどうかについて検定をおこなった。

分散分析は、 TOEFL と TOEIC の成績変容それぞれに対しておこない、さらに TOEIC については、英語専攻学生と非英語学生とに分けておこなった。

３．結果

3.1　TOEFL

TOEFL の成績変容及び PROG テストの結果を有する学生は 72 名で、下記のコンピテンシー要素について、コンピテンシーのレベルによって TOEFL の成績変容に有意差があると示唆される結果が出た。

「多様性理解」: 大分類「対人基礎力」の中分類「親和力」に属する小分類項目で、「多様な価値観を受け入れる」能力として定義される。「多様性理解」の要素についてはレベルが低い群が、高い群に比べて大きな成績変容があるという結果になった。

「話し合う」: 大分類「対人基礎力」の中分類「統率力」に属する小分類項目で、「相手に合わせて、自分の考えを述べる」能力として定義される。

「計画評価」: 大分類「対課題基礎力」の中分類「計画立案力」に属する小分類項目で、「自分の立てた計画を振り返り、見直す」能力として定義される。一般的に想定される試験対策学習に必要なコンピテンシーであり、妥当な結果ともいえる。

なお、本報告では PROG テストにおけるコンピテンシー能力要素に限定して分析をおこなったが、TOEFL の成績変容については PROG テストにおけるリテラシー能力要素（「情報分析力」、「情報収集力」、「言語処理力」、「非言語処理力」）と関係があるという結果が出た。

3.2 TOEIC

TOEIC の成績変容及び PROG テストの結果を有する学生は 128 名で、下記のコンピテンシー要素について、コンピテンシーのレベルによって TOEIC の成績変容に有意差があると示唆される結果が出た。

「親和力」: 大分類「対人基礎力」の中分類項目で、「相手の立場に立ち、思いやりを持ち、共感的に接することができる。また多様な価値観を柔軟に受け入れることができる」能力として定義される。

「人脈形成」: 大分類「対人基礎力」の中分類「親和力」に属する小分類項目で、「有効な人間関係を築き、継続する」能力として定義される。

「気配り」: 大分類「対人基礎力」の中分類「親和力」に属する小分類項目で、「相手の立場にたって思いやる」能力として定義される。

「協働力」: 大分類「対人基礎力」の中分類項目で、「お互いの役割を理解し、情報共有しながら連携してチーム活動することができる。また、時には自分の役割以外のことでも進んで助けることができる」能力として定義される。

「相談・指導・他者の動機づけ」: 大分類「対人基礎力」の中分類「協働力」に属する小分類項目で、「相談にのる。アドバイスする。やる気にさせる」能力として定義される。

「意見の調整、交渉、説得」: 大分類「対人基礎力」の中分類「統率力」に属する小分類項目で、「意見を調整し、合意形成する。交渉、説得する」能力として定義される。

「ストレスマネジメント」（全体:0.1, middle – low:0.1）: 大分類「対自己基礎力」の中分類「感情制御力」に属する小分類項目で、「緊張感やプレッシャーを力に変える」能力として定義される。

「完遂」（high – low:0.1）: 大分類「対自己基礎力」の中分類「行動持続力」に属する小分類項目で、「決めたことを粘り強く取り組みやり遂げる」能力として定義される。

「実践力」（全体:0.1, high – middle:0.1,high – low:0.1）: 大分類「対課題基礎力」の中

分類項目で、「幅広い視点からリスクを想定し、事前に対策を講じる。また、得られた結果に対しても検証し、次回の改善につなげることができる」能力として定義される。

「修正・調整」（high – low:0.1）: 大分類「対課題基礎力」の中分類「実践力」に属する小分類項目で、「状況を見て、計画や行動を柔軟に変更する」能力として定義される。

3.3　TOEIC（英語専攻学生）

TOEIC の成績変容及び PROG テストの結果を有する学生のうち英語専攻の学科に所属する学生は 48 名で、下記のコンピテンシー要素について、コンピテンシーのレベルによって TOEIC の成績変容に有意差があると示唆される結果が出た。

「気配り」: 大分類「対人基礎力」の中分類「親和力」に属する小分類項目で、「相手の立場にたって思いやる」能力として定義される。

「意見の調整、交渉、説得」: 先述のとおり。

「シナリオ構築」: 大分類「対課題基礎力」の中分類「計画立案力」に属する小分類項目で、「目標や課題解決に向けての見通しを立てる」能力として定義される。

「実践行動」: 大分類「対課題基礎力」の中分類「実践力」に属する小分類項目で、「自ら物事にとりかかる、実行に移す」能力として定義される。

なお、英語専攻学生における TOEIC の成績変容については、 PROG テストのリテラシー能力要素である「言語処理力」と「構想力」と関係があるという結果が出た。

3.4　TOEIC（非英語専攻学生）

TOEIC の成績変容及び PROG テストの結果を有する学生のうち英語専攻の学科に所属する学生は 80 名で、下記のコンピテンシー要素について、コンピテンシーのレベルによって TOEIC の成績変容に有意差があると示唆される結果が出た。

「親しみやすさ」: 大分類「対人基礎力」の中分類「親和力」に属する小分類項目で、「話しかけやすい雰囲気をつくる」能力として定義される。

「人脈形成」: 先述のとおり。

「協働力」: 先述のとおり。

「相談・指導・他者の動機づけ」: 先述のとおり。

「話し合う」: 先述のとおり。

「意見の調整、交渉、説得」: 先述のとおり。

「学習視点、機会による自己変革」: 大分類「対自己基礎力」の中分類「自信創出力」に属する小分類項目で、「学ぶ視点を持つ。経験を自己の変革に活かす」能力として定義される。

「実践力」: 先述のとおり。

「修正・調整」: 先述のとおり。

「検証・改善」: 大分類「対課題基礎力」の中分類「実践力」に属する小分類項目で、「結果を検証し、次の改善につなげる」能力として定義される。

表1 各コンピテンシー能力レベル別の英語能力試験成績の変容に関する分散分析と多重比較の結果

大分類	中分類	小分類	TOEFL	TOEIC	TOEIC（英語専攻）	TOEIC（非英語専攻）
対人基礎力	（対人基礎力全体）					
	親和力	（親和力全体）		*** middle ＞ low ** high ＞ low *		
		親しみやすさ				** high ＞ middle **
		気配り		** high ＞ low **	** high ＞ middle * high ＞ low *	
		対人興味、共感・受容				
		多様性理解	** high ＜ low **			
		人脈形成		* high ＞ low *		** high ＞ low **
		信頼構築				
	協働力	（協働力全体）		* high ＞ low **		high ＞ middle *
		役割理解、連携行動				
		情報共有				
		相互支援				
		相談・指導、他者の動機づけ		*** high ＞ low *** middle ＞ low *		*
	統率力	（統率力全体）				
		話し合う	** middle ＞ low **			*
		意見を主張する				
		建設的・創造的な討議				
		意見の調整、交渉、説得		** high ＞ middle *** high ＞ low **	* high ＞ low *	* high ＞ middle *
対自己基礎力	（対自己基礎力全体）					
	感情制御力	（感情制御力全体）				
		セルフアウェアネス				
		ストレスコーピング				
		ストレスマネジメント		* middle ＞ low *		
	自信創出力	（自信創出力全体）				
		独自性理解				
		自己効力感、楽観性				
		学習視点、機会による自己変革				* high ＞ low *
	行動持続力	（行動持続力全体）				
		主体的行動				
		完遂		high ＞ low *		
		良い行動の習慣化				
対課題基礎力	（対課題基礎力全体）					
	課題発見力	（課題発見力全体）				
		情報収集				
		本質理解				
		原因追求				
	計画立案力	（計画立案力全体）				
		目標設定				
		シナリオ構築			* middle ＞ low *	
		計画評価	** high ＞ middle ** high ＞ low ***			
		リスク分析				
	実践力	（実践力全体）		* high ＞ middle * high ＞ low *		** high ＞ middle ** high ＞ low **
		実践行動			** high ＞ low **	
		修正・調整		high ＞ low *		** high ＞ low **
		検証・改善				high ＞ middle *

* p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01

セル内上段は分散分析のp値

セル内中段・下段は多重比較の各群間のp値

上記の分析結果を表にまとめたものが表１である。

以上の分析は現時点で試行的なものであり、結果からまとまった考察をおこなうことはできないが、下記の点が論点として整理できる。

・TOEFL と TOEIC を比較すると、成績変容をもたらすと考えられるコンピテンシー能力要素が異なる。

・英語能力試験の学習に求められる能力として一般的に想定される「対自己基礎力」よりも、「対人基礎力」の能力要素が TOEIC の成績変容に関連していることが示唆される。

・TOEIC の成績変容については、英語専攻学生と非英語専攻学生とのあいだで関連するコンピテンシー能力要素が一部異なる。

【参考文献】

学校法人河合塾・株式会社リアセック監修、PROG 白書プロジェクト編　2015　『PROG 白書 2015』　学事出版

学校法人河合塾・株式会社リアセック　2015　『PROG の強化書』　（PROG 受検者向け解説書）